

はじめに

コース概要と目的

本コースはWebFOCUSの管理者、または開発者の方を対象に、WebFOCUSサーバの様々な機能とケーススタディについてご覧いただくコースです。

WebFOCUSのシステム構成やログ、デバッグ、トラブルシュートなどについて学ぶことで、より効率的な開発と運用管理の手順を身に付けたり、トラブル発生時の対応を学んだりすることを目的としています。

※具体的にどのような内容を扱うかは、本コース第1章でご紹介します。

受講対象

「WebFOCUSアプリケーション開発 入門」、「WebFOCUSアプリケーション開発 応用」を受講された方、もしくは同等の知識をお持ちの方。

製品のバージョン

本テキストで解説しているWebFOCUS、App Studioは以下のバージョンを使用しています。

- ・WebFOCUS 8.1 SP05
- ・App Studio 8.1 SP05

研修環境

本コースでは、製品のインストールや環境設定、データベースとの接続の設定なども完了した状態で研修を進行していきます。

研修環境のWebFOCUSとApp Studioは、WindowsのSJIS環境で構成されています。

また、サンプルデータベースはMicrosoft Accessを使用し、必要に応じてOracle Database 12cを使用して検証を行っています。

なお、研修環境では操作しやすいように初期設定を一部変更しているため、研修と同じ環境で開発したい場合はアフターサポートサービスの資料をご参照ください。

テキスト中の表記について

画面中に表示される文字の表記

- ウィンドウ、ボタン、メニューなど、画面に表示される文字は「`[]`」で囲んで表記しています。
- 画面上に表示される選択肢や、入力する文字については「`[]`」で囲んで表記しています。

ディレクトリの表記

- 本テキストではファイルのパスを表す際、すべてデフォルトのインストールディレクトリを基準に表記しています。
- WebFOCUSのインストールディレクトリは「`C:\¥ibi`」となります。お客様の環境と異なる場合は、適宜読み替えてください。

コマンドの構文規約

<code>値</code>	この表記は、ユーザが適切な値に置き換えて指定することを表します。
<code>{ 値1 値2 値3 }</code>	この表記は{}の中から、いずれか1つを選択することを表します。
<code>[値]</code>	この表記はその指定が任意に指定できる、オプションの指定であることを表します。必ずしも指定する必要はありません。

- ・Microsoft、Windows、Microsoft Office、SQL Server、その他本書に記載されるマイクロソフト製品は、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・UbuntuおよびCanonicalは、Canonical Ltd.の登録商標です。
- ・OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- ・IBM、IBMロゴ、ibm.com、DB2およびdeveloperWorksは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。
- ・Mac、Mac OS、Safari、iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・Google Chrome、AndroidはGoogle Inc.の商標です。
- ・Adobe、Adobeのロゴ、Adobe Reader、Acrobat、Flashは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社)の商標です。
- ・Apache、Tomcatは、Apache Software Foundationの商標または登録商標です。
- ・Mozilla、Firefoxの名称およびそのロゴは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。
- ・本書では、®、©、TMマークなどは特に明記していません。
- ・本書に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、株式会社アシスト、および、著者、本書製作関係者は一切責任を負いません。

目次

第1章 概要

1.1 本コースの目的.....	1-1
1.1.1 本コースの目的.....	1-1
1.1.2 各章の概要と目的.....	1-2
1.2 前提知識.....	1-3
1.2.1 WebFOCUSのシステム構成.....	1-3
1.2.2 WebFOCUSの起動と停止.....	1-5
1.2.3 WebFOCUSサーバ管理ツール.....	1-6
1.3 第1章のまとめと章末付録.....	1-8
1.3.1 まとめ.....	1-8
1.3.2 章末付録.....	1-8

第2章 運用管理のポイント

2.1 WebFOCUSのプロセス.....	2-1
2.1.1 WebFOCUSのプロセス.....	2-1
2.1.2 エージェントプロセス.....	2-2
2.2 WebFOCUSのログ.....	2-6
2.2.1 WebFOCUSのログ.....	2-6
2.2.2 サーバログ.....	2-6
2.2.3 サーバログの主要メッセージ.....	2-10
2.2.4 サーバログの活用に関するTips.....	2-12
2.3 OSおよびサービスの再起動.....	2-14
2.3.1 OSおよびサービスの再起動.....	2-14
2.4 バックアップ対象.....	2-15
2.4.1 バックアップ対象.....	2-15
2.5 第2章のまとめと章末付録.....	2-16
2.5.1 まとめ.....	2-16
2.5.2 章末付録.....	2-17

第3章 エージェント

3.1 エージェントの動作と設定変更.....	3-1
3.1.1 エージェントの動作.....	3-1
3.1.2 エージェントの設定変更.....	3-2
3.1.3 エージェントの動作確認.....	3-3
3.1.4 エラーメッセージのカスタマイズ.....	3-10
3.2 エージェントの監視.....	3-16
3.2.1 Webコンソールでの監視方法.....	3-16
3.2.2 エージェントの強制終了と開始.....	3-20
3.2.3 エージェントの強制終了の注意点.....	3-25
3.2.4 緊急対応時のコマンド.....	3-26
3.3 第3章のまとめと章末付録.....	3-32
3.3.1 まとめ.....	3-32
3.3.2 章末付録.....	3-33

第4章 開発と運用の効率化

4.1 基本機能と基本用語.....	4-1
4.1.1 グローバルプロファイル.....	4-1
4.1.2 データアダプタ.....	4-2
4.1.3 シノニム.....	4-4
4.2 処理の共通化.....	4-9
4.2.1 処理の共通化.....	4-9
4.2.2 ケーススタディ(グローバルプロファイル).....	4-9
4.2.3 ケーススタディ(マスターファイル).....	4-13
4.3 ファイルの管理.....	4-16
4.3.1 ファイルの管理.....	4-16
4.3.2 ケーススタディ(開発用プロジェクトと本番用プロジェクト).....	4-18
4.3.3 ケーススタディ(開発用DBと本番用DBの切り替え).....	4-24
4.4 第4章のまとめと章末付録.....	4-31
4.4.1 まとめ.....	4-31
4.4.2 章末付録.....	4-32

第5章 セキュリティ

5.1 WebFOCUSのセキュリティ.....	5-1
5.1.1 WebFOCUSのセキュリティ.....	5-1
5.2 WebFOCUSの認証機能.....	5-2
5.2.1 内部認証.....	5-2
5.2.2 外部認証.....	5-4
5.3 WebFOCUSの認可機能.....	5-9
5.3.1 WebFOCUSの認可機能.....	5-9
5.3.2 ユーザプロファイル.....	5-10
5.3.3 グローバル変数.....	5-10
5.3.4 FILTERコマンド.....	5-14
5.3.5 DBA.....	5-15
5.3.6 プロシジャ.....	5-17
5.4 第5章のまとめと章末付録.....	5-18
5.4.1 まとめ.....	5-18
5.4.2 章末付録.....	5-18

第6章 トラブルシュート実習

6.1 トラブルシュート実習概要.....	6-1
6.1.1 トラブルシュート実習概要.....	6-1
6.2 トラブルシュート実習の課題.....	6-2
6.2.1 課題1 プロシジャを実行できない.....	6-2
6.2.2 課題2 サーバの負荷が高い.....	6-5
6.2.3 課題3 ログから情報を収集する.....	6-8

A 付録

A.1 edastart.bat簡易リファレンス.....	A-1
A.1.1 edastart.bat簡易リファレンス.....	A-1
A.2 第2章 運用管理のポイントの補足.....	A-3
A.2.1 レポートサーバのプロセス一覧.....	A-3
A.2.2 サーバログのフィルタ.....	A-5
A.2.3 セッションログウィンドウ.....	A-6
A.2.4 トレースの取得.....	A-7
A.2.5 主要な設定ファイル.....	A-16
A.3 第3章 エージェントの補足.....	A-17
A.3.1 主要なエラーメッセージ.....	A-17
A.3.2 エージェントの監視画面.....	A-19
A.4 第4章 運用と開発の効率化の補足.....	A-23
A.4.1 レポートサーバのアプリケーションパスの設定.....	A-23
A.4.2 アプリケーションマップの設定.....	A-25
A.4.3 非アクティブディレクトリの表示.....	A-27
A.4.4 APPコマンド.....	A-28
A.5 第5章 セキュリティの補足.....	A-29
A.5.1 サンプルアプリケーションの解説.....	A-29
A.5.2 Webコンソールに接続可能なマシンの制限.....	A-41
A.5.3 SQLパススルーの無効化.....	A-42
A.5.4 OSコマンドの無効化.....	A-42

第1章 概要

この章の概要	この章では、本コースの目的と第2章以降の前提知識についてご説明します。 本コースをご受講いただくにあたり、各章でどのような内容について取り扱うのかと、サーバ管理に必要となる前提知識をご説明します。
この章のゴール	(1) 本コースの目的について理解すること。 (2) 第2章以降の前提知識を習得すること。
主な習得スキル (習得機能)	WebFOCUSのシステム構成 (レポーティングサーバ、WebFOCUS クライアント、App Studio、リポジトリデータベース)、WebFOCUSの起動と停止、サーバ管理ツール (Webコンソール、WebFOCUS管理コンソール)
所要時間	約20分

1.1 本コースの目的

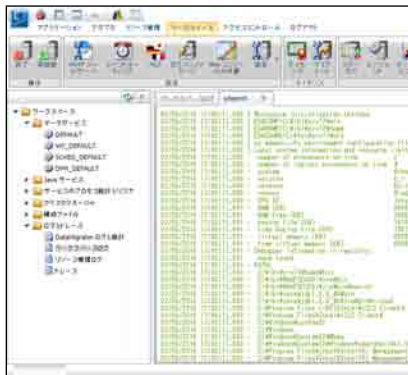
1.1.1 本コースの目的

本コースは、WebFOCUSサーバの様々な機能と、ケーススタディについてご覧いただくコースです。サーバ管理のコースではありますが、運用管理に必要なシステム構成やセキュリティといった知識だけでなく、各プロシジャの設定をサーバで一括設定して開発を効率化するという、開発者向けの機能についてもご説明します。

ログファイル

WebFOCUSの起動などの情報をサーバログに出力。

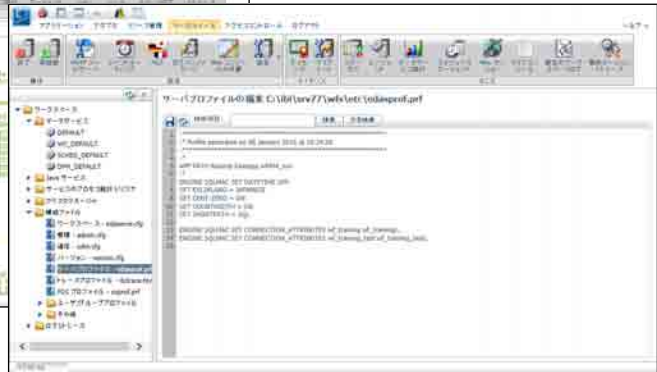
『2章 運用管理のポイント』より。



グローバルプロファイル

複数プロシジャで使用する処理を共通化。

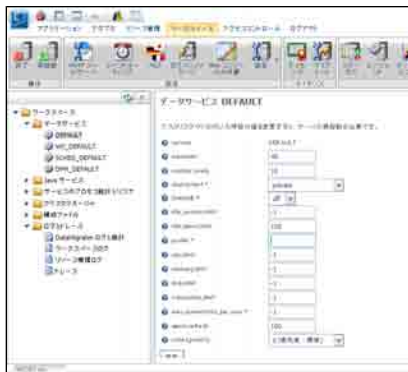
『4章 開発と運用の効率化』より。



エージェントの設定

最大同時接続数などを設定。

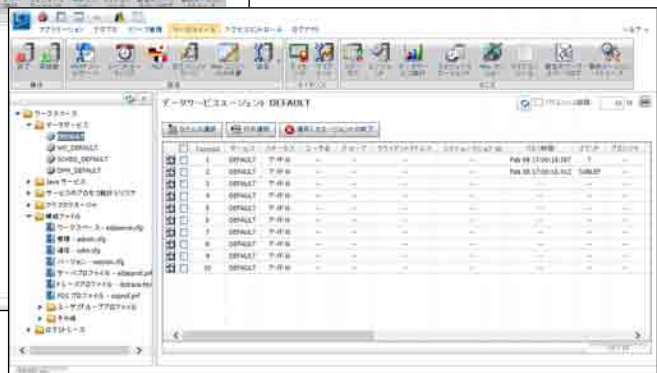
『3章 エージェント』より。



エージェントの監視

必要に応じて強制終了を実行。

『3章 エージェント』より。



1.1.2 各章の概要と目的

本コースの第1章は概要、最後の第6章は総合実習で、第2章から第5章までが研修の本編です。

第1章 概要

前半部分では、本コースの目的についてご覧いただきました。

後半部分では、WebFOCUSのシステム構成や起動と停止方法、WebFOCUSサーバ管理ツールなど、第2章以降の前提となる知識についてご説明します。

ゴール: 本コースの目的について理解すること。2章以降の前提知識を身に付けること。

第2章 運用管理のポイント

この章では、WebFOCUSのプロセスやログ、バックアップなど、WebFOCUSの運用管理に必要な知識についてご説明します。

ゴール: 運用管理に必要な知識を身に付けること。

第3章 エージェントプロセス

この章では、WebFOCUSの運用管理で特に重要な「エージェントプロセス」について実習形式でご覧いただけます。エージェントプロセスの動作を確認し、障害発生時の対応などについてご説明します。

ゴール: エージェントプロセスの動作を理解すること。障害発生時の対応を身に付けること。

第4章 開発と運用の効率化

この章では、開発と運用をより効率的に行う方法についてご説明します。

各プロシージャの設定をサーバで一括設定して処理を共通化する方法、開発環境と本番環境を同一筐体で運用している場合のプロジェクトの管理や注意点、開発・本番データベースの切り替え方法についてご紹介します。

ゴール: WebFOCUSの効率的な開発・運用手順を身に付けること。

第5章 セキュリティ

この章では、WebFOCUSのセキュリティについてご説明します。

ただし、セキュリティはお客様ごとに要件と環境が多岐に渡るため、この章ではWebFOCUSの標準機能で実装できるセキュリティと注意点をご紹介します。

ゴール: WebFOCUSのセキュリティについて、自社でどのような設定が必要なのか、また可能なのかを判断できるレベルの知識を習得すること。

第6章 トラブルシュート実習

この章では、第5章までで学習した内容を使用した総合実習を行います。

ゴール: 本コースの理解度を確認すること。